

Eplerenone improves carotid intima-media thickness (IMT) in patients with primary aldosteronism

松田, やよい

<https://doi.org/10.15017/1785455>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏 名：松田 やよい

論 文 名：Eplerenone improves carotid intima-media thickness (IMT) in patients with primary aldosteronism

(エプレレノンとは原発性アルドステロン症患者における頸動脈の内膜中膜複合体厚(IMT)を改善する)

区 分：乙

論 文 内 容 の 要 旨

原発性アルドステロン症では本態性高血圧と比較して心血管疾患を高頻度に合併する。原発性アルドステロン症患者に副腎摘除術を行うことで頸動脈の内膜中膜複合体厚(intima-media thickness: IMT)が改善することが報告されているが、選択的アルドステロン拮抗薬であるエプレレノンが原発性アルドステロン症患者の血管障害に与える影響に関しては明確でない。エプレレノンが原発性アルドステロン症患者の血管機能に与える影響を評価するために、22名の原発性アルドステロン症患者を対象として治療前後の平均IMTを評価した。22名のうち、8名は副腎摘除術を施行し、14名はエプレレノンによる治療を行った。副腎摘除群では、術後6ヵ月後の血漿アルドステロン濃度(治療前 345 ± 176 pg/mL、治療後 67 ± 34 pg/mL; $P < 0.01$)およびIMT(治療前 0.67 ± 0.07 mm、治療後 0.63 ± 0.09 mm; $P < 0.05$)は有意に低下していた。エプレレノン群においても、IMTは治療前(0.75 ± 0.10 mm)と比較して、6ヵ月後(0.71 ± 0.11 mm; $P < 0.05$)、12ヵ月後(0.65 ± 0.09 mm; $P < 0.01$)と有意に低下していたが、血漿アルドステロン濃度は治療前 141 ± 105 pg/mL、治療後 207 ± 98 pg/mL と有意に上昇していた($P < 0.05$)。頸動脈のIMTは原発性アルドステロン症患者に対するエプレレノンの治療効果判定に有用であることが示唆された。